

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	鹿児島県
-------	------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	喜入町立喜入小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	21
児童数	58	59	48	50	65	39	3	322	

研究の概要

1. 研究主題

基礎学力の定着を図り、自ら学び、自ら考える子どもの育成
 ～国語科・算数科における学習指導の充実を目指して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・1・2年生・国語
読み・書きなど基礎学力を定着させたい教科・学年であるため、TT指導を中心に
- ・3年生・5年生・国語
学校として、当該教科・実施学年に関する研究実績があるため、少人数指導で
- ・1・2年生・算数
計算力・数学的な考え方などの基礎学力を定着させたい教科・学年であるため、TT指導を中心に
- ・3年生・4年生・5年生・6年生・算数
今までの児童の習熟の状況に差があり、また、理解の状況に差が出やすい教科・学年であるため、3年生はTT指導中心に、4年生以上は少人数指導で

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 基礎学力の定着を図り、自ら学び、自ら考える子どもの育成の在り方 ～国語科・算数科における学習指導の充実を目指して～</p> <p>研究の方法・・・実践授業を中心に仮説検証し、研究を進めた。</p> <p>研究仮説1 基礎的基本的事項を明確にして、系統的・反復的な学習を展開すれば、子どもたちは基礎学力を身につけ、意欲をもって学習するようになるのではないか。</p> <p>研究仮説2 児童の実態にあった学習過程を確立し、「わかる授業・できる授業・楽しい授業」を充実させれば、子どもたちは主体的に学習に取り組むようになるのではないか。</p> <p>研究仮説3 子どもたちの学習状況やよさを的確に評価し、向上心を刺激するような支援を行うならば、子どもたちは、自ら学び、自ら考える学習を発展させるようになるのではないか。</p> <p>研究の内容 (研究内容1) 1 単元における基礎学力の解明 2 基礎学力定着度の組織的・客観的な分析 3 授業外での基礎学力定着のための取組と改善</p> <p>(研究内容2) 1 学習指導法の改善 2 個に応じた指導法の弾力化の工夫 3 教材・教具の工夫</p>
--------	---

- (研究内容3)
 1 評価の工夫
 2 評価の生かし方

基礎学力定着校2年次のまとめ
 研究公開

平成
15
年度

テーマ

基礎学力の定着を図り、自ら学び、自ら考える子どもの育成
 ~国語科・算数科における学習指導の充実を目指して~

研究構想の検討・修正

(1) 仮説検証から視点研究へ

平成13年度及び14年度の研究実践において、立てた3つの仮説については、ほぼ実証されたと考え、本年度からは3つの仮説内容に沿った視点を定め、視点研究を実践していくこととした。特に研究授業においては、3つの視点から授業における視点を細かく設定し、研究主題に迫るよう研究を進めていこうと考えた。

また、本校は学習指導カウンセラー派遣校の指定を受け、大学教授の専門的な指導・助言をいただき、授業を構成する様々な点についても視点を明確にして研究を進めていくこととした。

仮説1 視点1 基礎学力の定着を図る学習活動の工夫

- (1) 習熟を図る場の工夫
- (2) 問題解決的な学習過程や教材に応じた学習過程の工夫

仮説2 視点2 個に応じた指導法の工夫と
 「分かる・できる・楽しい」授業の創造

- (1) 個に応じた指導スタイル
- (2) 個に応じた指導形態の工夫・改善
- (3) 「分かる・できる・楽しい」授業の創造

仮説3 視点3 評価の工夫

- (1) 指導と評価の一体化
- (2) 自己評価と相互評価の在り方
- (3) 評価への取り組み方

実践授業による研究

フロンティアスクール2年次のまとめ

学校間兼務発令による共同研究

- ・ 6月30日(算数科共同研究)兼務発令により中名小学校・一倉小学校・喜入中学校の教諭が喜入小学校でTT指導・少人数指導の形態で授業

- ・ 11月(国語科共同研究)喜入小で研究授業する指導案・教材を町内小学校に配布

町フロンティア事業研究公開(2月3日)

喜入小教諭が生見小学校・前之浜小学校・瀬々串小学校に出向き、共同研究したものをそれぞれの学校で授業公開し、町全体で学力向上のための研究を深める

学習指導カウンセラー派遣事業

平成
16
年度

テーマ

基礎学力の定着を図り、自ら学び、自ら考える子どもの育成
 ~国語科・算数科における学習指導の充実を目指して~

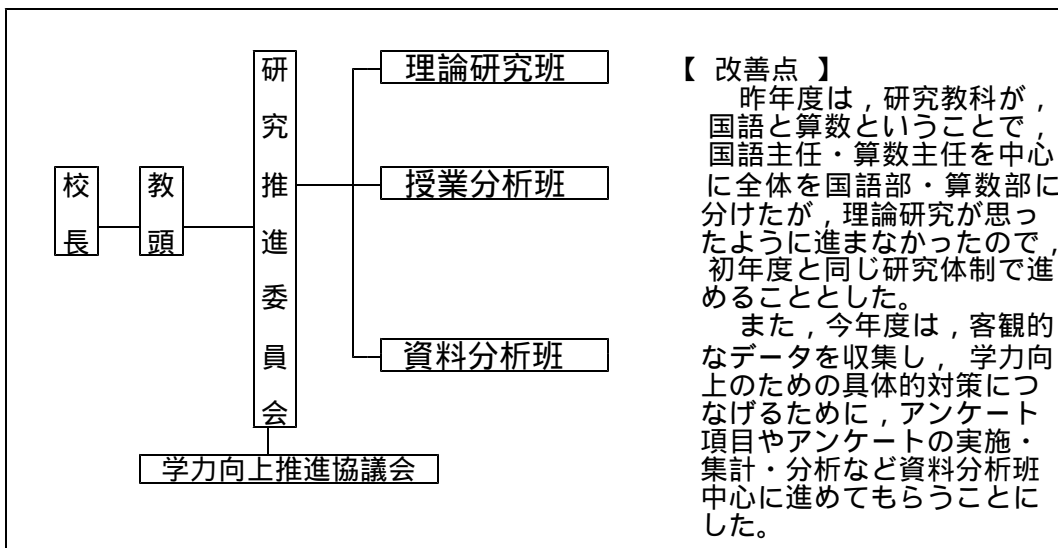
研究内容・方法

15年度の研究内容を受けて、国語科・算数科の本質に迫る視点研究を実践授業を通して進める。

- ・ 学ぶ喜びを味わう授業の在り方(「楽しい」学習を追求)
- ・ 習熟や理解の程度に応じた学習の成果のまとめ(客観的なデータで)

- ・ 基礎学力の定着を図る時間のまとめ（客観的なデータで）
- ・ 評価に関する研究のまとめ（客観的なデータで）
- ・ 保護者・地域との連携の在り方
研究構想の検討・修正
研究の实践（成果と課題の明確化）
研究公開
研究（学習指導カウンセラー派遣事業も含む）のまとめ

(3) 研究推進体制



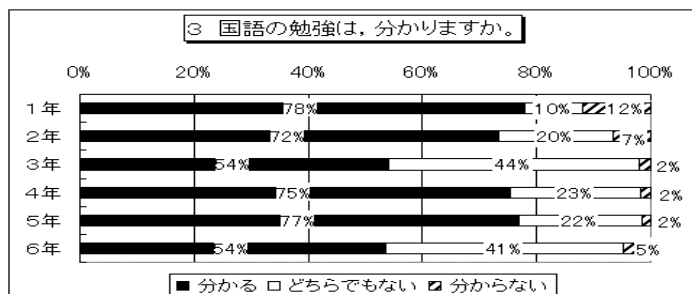
平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

1 個に応じた指導形態の工夫や指導法の改善はより効果的であった。
国語科のCRT学力検査結果（平成15年2月実施）とアンケート結果から本校の通過率の平均と全国通過率の平均と比べたものである。

(1年生)		(2年生)		(3年生)	
	通過率		通過率		通過率
喜入小	80.8%	喜入小	73.8%	喜入小	81.3%
全国	76.6%	全国	73.0%	全国	71.5%

(4年生)		(5年生)		(6年生)	
	通過率		通過率		通過率
喜入小	80.0%	喜入小	77.4%	喜入小	79.8%
全国	74.8%	全国	74.0%	全国	77.9%



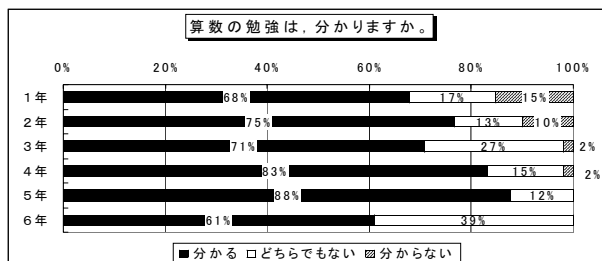
昨年度に比べ、「分かる」の子どもが増えている。

算数科のCRT学力検査結果（平成15年2月実施）とアンケート結果から本校の通過率の平均と全国通過率の平均とを比べたものである。

(1年生)		(2年生)		(3年生)	
	通過率		通過率		通過率
喜入小	91.1%	喜入小	85.3%	喜入小	86.1%
全国	85.9%	全国	81.7%	全国	78.0%

(4年生)		(5年生)		(6年生)	
	通過率		通過率		通過率
喜入小	83.7%	喜入小	78.5%	喜入小	78.5%
全国	75.2%	全国	70.5%	全国	72.8%

算数科も昨年度に比べ、「分かる」が増えている。



2 評価規準を児童の実態に応じて子どもの状況で具体的に設定し、観点別に評価することで、信頼性の高い評価となり、指導に生かすことができた。

2. 今後の課題

- (1) 補充・発展的指導を取り入れた個に応じた指導の充実
- (2) 教科の特質を踏まえた指導法の改善
 国語科・・・読み取る力・まとめる力・聞き取る力をつける系統的な指導
 算数科・・・基礎学力の定着と数学的な考え方を育てる指導
- (3) 指導に生かす評価の在り方
- (4) 地域・保護者・校種間の連携と学校評価を生かした基礎学力定着の在り方

学力等把握のための学校としての取組

- 1 CRT学力検査の実施と結果分析 (2月実施し, 3月分析)
 目的 学力の定着度, 学習した教科の理解度を把握し, 個に応じた指導に生かす。
- 2 学習に関するアンケート調査(家庭学習も含む)(年2回実施)
 目的 指導形態の工夫による児童の意識調査を実施し, 指導形態の改善を図る。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

学校間兼務発令による共同研究
 6月30日(算数科共同研究)喜入小学校で町内3校の教諭と喜入小の教諭がT・T指導・少人数指導など指導形態を工夫した指導を実践。
 11月(国語科共同研究)研究授業の指導案・教材を町内小学校に配布
 中間発表会(2月3日)の公開授業の指導案検討を共同で実施したり, T・Tで指導に関わったりして, 共同研究を深める。
 喜入町フロンティア事業中間発表会

- 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)
- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無